

「神保町と私」スペシャルインタビュー

三省堂書店 141年目を 迎えて思うこと

三省堂書店社長
亀井崇雄

昨年4月に創業140周年を迎えた三省堂書店は、「神保町一丁目一番地」に立地する神保町本店の約40年ぶりとなる建て替えをおこないます。

うのも、ピンチになったときの
一体感とか、なんかそういうま
とまりみたいなところがあるか
なとは思ってはいます。
——昨年140周年をコロナ禍
で迎えていかがでしたか。
いやもう、ただ一言しんどい
の一点ですね。われわれの出
店の中で多いのが都心型。そ
に本来来ていただるべきお客様
がなかなか来てくださらない

——昨年140周年をコロナ禍で迎えていかがでしたか。

いやもう、ただ一言しんどいの一点ですね。われわれの中でも多いのが都心型。そこには本来来ていただるべきお客様がなかなか来てくださらないと。



出版ブックだりよ

出版クラブ会報
No.611

伝統と革新

――昨年が創業140周年、

われわれはどう変わつていかなければならぬのか。まさにそん
ういう転換点を迎えてしまつたらしいが、それが率直な実感ですね。
——その中でお店を建て替える
——う決断はどういう経緯で

たまなんですね。旧ビルは創業100周年で建てました。建物自体はまだまだ頑丈でしばらくはいけるんですけども、エレベーターとかインフラの設備がもう相当老朽化していく。建て替えを検討しようかということを何年前からいろいろ社内で勉強会とか開いたり、社外の方からのマ

ドバイスもいただきながら、いろいろ研究をしてきました。でこれでいきましょうと言つてアイナ NSも組んだ。そのときにはコロナになつてしまつた。なんでこのタイミングと苦しんだ部分もあるんですけど。新しいビルが完成して、さあ新たな神保町本店で再スタートってなつたときに世の中がどう変わつてゐるか。で、そのときにその新しい神保町本店を旗印に三省堂書店がどう変わるかというタイ

新本店は2025年か26年ぐらいに完成予定です。その頃に、どういうふうに業界がなつてゐるか。まずは講談社、小学館、集英社、大手3社さんと丸紅さんで始められるRFID事業。これで書籍にICタグが付けば書店のサービスってガラッと変わるし、見え方も全然違うと思ひます。新しい本店ができるときにはある程度本の中に装着しているという状態が進んでいるんじゃないかという期待はあります。今のうちから準備していくなきゃいけないと思つていま

R.F.I.D.によって圧倒的に
率化にもつながりますし、また
業界の物流といったところにも
ね。書店がよりお客様にとって
使いやすい、探しやすい、安
い、といったことが実現できる
技術だと思つてますので、そこ
に対する期待はどの書店さんも
強いんじゃないでしょうか。

一番直結するのは棚卸しと万
引ですね。そこに対するコスト

ミングなのかなというふうに前向きに捉えるようになりましたね。

出版クラブだより

がなくなるかというところは期待したいところです。あとは、在庫が瞬時にどこにあるというところまで分かりますからね。お客さまにとっても非常にいし、われわれ書店からしても非常にありがたいことだと思います。

いつたところで勝負ですかね。そういうところを磨きながら、そこで得た知見を次の新本店で生かせられるよういろいろやつていきたいなと思います。

——お店が小さくなる分、電子書籍であるとか、ネット書店と
かに力を入れることになるんで

やはりそういう新しいことに取り組むことが好きな会社なんだと思いますね。

電子書籍を始めるときにわれわれは電子書籍端末を従業員に配りました。まず従業員に経験してもらつて。

つていただけるかもしない。
やはり良質なコンテンツにおいて
金を払って、ちゃんと自分の時
間を使うという価値観をしつか
り伝えるというところは業界と
しては大事だと思います。書い
てくださる方にお金が行く。そ
れによって業界全体がちゃんと

お金払って、時間使って、この本を読むためには相当なエネルギー・コストが必要だと思うので、そうさせるためのきつかけというところにわれわれはもうちょっと下りていって、そこに伝えにいかなきやいけない。上から「皆さんご存じのこれ、ま



龜井崇雄（かめい・たかお）

昭和50年11月22日生

平成11年3月 明治学院大学国際学部卒業
平成11年4月 株シーエスエス入社
平成17年10月 株三省堂書店入社
令和2年11月 代表取締役社長に就任

現在の本店から300メートル
もない距離なんんですけど。
お店が狭くなる分、提案力と
か、お客さまに本を納得して買
ついていたぐための説得力と
か、あと本の見せ方とか、そ

——これまで電子書籍には積極的に取り組んでこられましたよね。

いろいろ時代が変わる、業界が変わることころに取り残されるわけにいかないで

一番いいのは相乗効果でどちらも伸びることですから。最終的にコンテンツにちゃんとお金を払って、自分で読みたいものを選んで、それを自分の時間でしつかり消費するという

数になつたので、そこをなんとかしなきやいけない。
今本を読んでるお客さまがもう1冊、2冊買っためにはどうするかという議論にいきがちなうんすけど、読書量ゼロの人を

にはもつと本の定価を上げたほうがいいのでは、もしくは原価率を下げるべきだとかいう話が出ていますけど。

つていただくための説得力とか、あと本の見せ方とか、そろ

が変わる。そういうたところにいられないで取り残されるわけにいかないで

いものを選んで、それを自分の時間でしつかり消費するというお客様を増やしていくかないといけないので。それにおいて、もう紙も電子もないと思いますし。

するかという議論にいきがちなんですが、読書量ゼロの人を1冊にするということのバイのほうがはるかに大きいと思います。そのためにはまずハードルが低い電子のほうから入つて

原価率を下げていただけるん
であれば、それはそれでほんと
にありがたいんですけど、はた
してその原価を下げるだけの原
資というのはどこから生まれて
るんですか？ というところに

新しい読者の開拓

——人は本を読まない時代になつてしまつたから、そこをどうすればいいんだろうということを真剣に考えていかないと。

あと、返品とかを減らすためにはいろいろAIの技術を使つたりとか、そういう形での効率

化というところはぜひ進めていっているものに関してはもうデタもあるわけだし。そういうふうな意識の切り替えとか。今はまだ世界に比べてまだ日本の書店がそこそこ残っているのは委託販売のおかげというところがあったと思います。

そういうところでまだ見ぬ新作家さんが売れるためにはある程度そうした形での拡散も必要であるという、そういう議論も非常にかかるので。うまくそこらへんがね、いいバランスで着地できるといなとは思うんですけどね。

新刊に対するある程度委託配本みたいな感じでやっていた

だいてもいいのかなと。その代わり既刊とかね、そういうものは買いたりとか、そういうような形で責任販売とか、というふうな考え方でもいいんじゃないかなと思うんですけどね。

——常に新しい才能を発掘しないといけないという。

そう、そう。それはある程度分かんない部分ですね。でも、大きな可能性にかけるのであれば、それなりに書店でワーッて積んであげないと売れるものも売れないので、というところも現実あるとは思うんですけど。そういう可能性を擒んでしまうのはちょっと業界的にはあんまりよくないなとも思つて。

ただ販売されて1年以上たつ

無駄な注文をしない、そういうふうな注文をしない、そういうふうな意識の切り替えとか。今はまだ世界に比べてまだ日本の書店がそこそこ残っているのは委託販売のおかげというところがあつたと思います。

そういうところでまだ見ぬ新作家さんが売れるためにはあ

る程度そうした形での拡散も必要であるという、そういう議論も非常にかかるので。うまくそこらへんがね、いいバランスで着地できるといなとは思うんですけどね。

新刊に対するある程度委託配本みたいな感じでやっていた

だいてもいいのかなと。その代わり既刊とかね、そういうものは買いたりとか、そういうような形で責任販売とか、というふうな考え方でもいいんじゃないかなと思うんですけどね。

——常に新しい才能を発掘しないといけないという。

そう、そう。それはある程度分かんない部分ですね。でも、大きな可能性にかけるのであれば、それなりに書店でワーッて積んであげないと売れるものも

売れない、というところも現実あるとは思うんですけど。そういうふうな可能性を擒んでしまうのはちょっと業界的にはあんまりよくないなとも思つて。

——新刊に対するある程度委託配本みたいな感じでやっていた

だいてもいいのかなと。その代わり既刊とかね、そういうものは買いたりとか、そういうような形で責任販売とか、とい

うな形で責任販売とか、とい

うな形で責任販売とか、とい

ういう提案をそもそもしていないものに関してはもうデタもあるわけだし。そういうふうな意識の切り替えとか。今はまだ世界に比べてまだ日本の書店がそこそこ残っているのは委託販売のおかげというところがあつたと思います。

神保町への思い

——最後に神保町に対する、一

丁目一番地としての思いは？

この神保町という街へのこだわりみたいなのは社員もそうで

すし、私もそうですし、うちの会長もそうです。それでは

それがなりの思い入れみたい

なのがやはりある街なんですよ

ね。蔵書量世界一とか言われて

いる街で、お客様が本当に困つ

たら、最後にはもうやはり神保

町に行こう。そういう街であ

つてほしいし、というところな

ので、そこを拠点にというとこ

ろを失いたくなかったので、

仮店舗の開店にこぎつけたんで

すけど。なので、これからも神

保町、ちょっと小川町といった

街に貢献できるようことは引き続き

やつていきたい。神保町に来て

くださるお客様まというのはほ

んとに本が好きな方が多い。そ

ういうお客様まと接してこれた

ところが当社にとってはか

けがえのない経験になつてます

。そういう意味でやはり重要

な場所。これからもしっかりと向

き合つていかなきやいけない場

所というふうには思つていま

す。神保町とともに発展する。

そういうことを考えていつた形

を新しい神保町本店に盛り込ん

でいかなきやいけないし、新神保町本店でも考えていかなきやいけない。宿命みたいなもんですかね。

神保町本店では本当にいろんな出版社さんや取次さんとの協力がありますので、引き続きご協力をありがとうございます。そしてちゃんと歩んでまいりますけれども、この神保町で

書店としてちゃんと歩んでまいりたいとのと同時に、ぜひ新しい三省堂書店にご期待いただき、変わらぬご愛顧をお願いします。

何が正解か分からぬですけども、ちょっとジタバタやつてあります。われわれこの業界がなかなかたら、日本はおしまいと思うで。なんとか、われわれ業界が頑張ると、やはりそれだけ日本つて強くなるというか、それだけしつかりと勉強されるような方々とか、将来の日本をなんとか乗り切つていただけるような方々を増やすためにわれわれは頑張っている、そのペクトルだと思うので。そこを開ざしちゃいけない。

そのためいろいろやつていかないと。火を消さないように頑張つていいと思います。頑張つていいと思います。——どうもお忙しい中、ありが

第61回 全出版人大会

大會 声 明

長寿者

十七名

平

千枝子
白桃書房
元取締役

田村仁

講談社
元取締役

手塚賢二
教育出版
元執行役員

戸塚雄式
実教出版
元取締役会長

中山正隆
ビジネス教育出版社
元取締役

成瀬好文
東京書籍
元取締役

佐藤中
実教出版
元取締役

斎藤淳
培風館
取締役営業部長

根岸眞
日本出版販売
元常務取締役

吉島哲夫
日本出版販売
元常務取締役

古川信夫
福音館書店
元取締役書籍編集部長

鈴木哲
講談社
元常務取締役

鈴木道典
有斐閣
元常務取締役

青海泰司
有斐閣
元常務取締役

〈氏名五十音順・敬称略〉

かつて、多くの人が希望に溢れる未来を思い描いていました。現代を生きる私たちは自分たちの未来についてどのような展望を持つているでしょうか。情報技術の進化は、私たちの生活にほんの十数年前でさえ想像できなかつた大変革をもたらしました。市井の人々の小さな幸せの場面が一瞬で地球の裏側まで届き、共有される。このような科学技術の進歩は、人と人を繋ぎ、人類をこれまで成しえなかつた幸福に導いてくれるのでしょうか。期待に反し、現代においても大国が問題解決に武力を用いることにより、無辜の市民の命が奪われ、人権が著しく侵害される状況があちらこちらで生じています。それに対しても国際世論は一齊に非難の声を上げ、人権が蹂躪された側を支援する動きが生まれます。これは、武力行使や人権侵害、言論弾圧など精神の自由を脅かす行為は絶対悪であるという確立された価値観が多くの人たちの間で共有されているためです。

しかし一方、森林伐採や化學物質の大量使用による環境破壊や、無軌道な化石燃料の消費による温室効果ガス濃度の上昇が、生物多様性の喪失や気候変動等を招き、このまでは私たちの文明社会を持続することができないとさえ言われています。このような人類全体の存続を脅かす問題について未だ有効な手が打てるに至るのはどうしてなのでしょうか。それは、これらの問題を引き起こしているのが私たちの生活そのものであるからです。これまで絶対善と考えられてきた自由競争や経済成長は半ば無自覚に「自然環境や経済弱者からの収奪」を基盤としていました。社会の持続可能性を脅かすものが私たち自身の生き方に起因するものであるのだとしたら、この問題を解決するには価値観のアップデートが必要になるでしょう。それは例えば「競争と成長」よりも「調和と持続」が上位に来るといったものかもしれません。

文明社会の持続可能性の問題も、出版業界の持続可能性の問題も根は同じだと考えられます。自由競争の名のもとに、「自分だけよければ」「今だけよければ」という行動を続けた結果、どこかに過度な負荷がかかり、「エコシステム」全体の健全性が損なわれたことが出版業界の今の状況をもたらしています。持続可能性を高めるために必要なことは、エコシステムを形成する人や要素ひとつひとつに思いを馳せ、システム全体の構造を理解することです。そのことを世の中に浸透させるために、私たち出版人はこのような論点や価値観を広く紹介し未来の可能性を広げる議論をする場を提供するとともに、自分たち自身がこれららの課題にしっかりと向き合い議論し行動してまいります。出版業界の持続可能性を高めるための議論や行動を通して、人類全体の持続可能性を高めることに資することも私たちの大切な役割です。

人間社会だけでなく、自然や宇宙を構成する要素ひとつひとつの営みを想像し、理解することは、人の学びそのものであり、人生の大きな喜びに繋がります。学びの原動力である、ものごとの中に神秘さや不思議さ、面白さを見出す感性、すなわち「センス・オブ・ワンダーラー」は、多種多様な良質のコンテンツと出会うことで生涯伸びることができます。私たちは出版活動を通して、人々がコンテンツと出会うあらゆる機会や環境を守り、世界中の人々にその感性の種を届け続けます。そしてこのことが、地球規模の問題を解決し、私たち人類の希望の光となることを確信します。

二〇二三年五月十三日

永年勤続者

三三六名

もうと本が
読みたくなる。



**図書カードNEXTは
出版界を活性化する
「本の贈りもの」です。**

(大會委員)
青木 石崎 上野 及川 大坪 岡本 木滑 良久 明剛 嘉春 清徹 江草 今村 生駒 大壹 正樹 忠敬 昌宏 一弘 敏貴 優 近藤 金原 大橋 相賀

大會役員

〈大會委員長〉 千葉 均	〈大會副會長〉 小野寺 優 堀内 丸惠	〈大會會長〉 野間 省伸
-----------------	------------------------	-----------------

山本修 岩尾奈津子 佐藤慎一
郎 野口健 日本実業出版社 ||
前川健輔 小川剛史 安井万祐
弥 大久保陵滋 日本出版販売
II 池田健 重野美信 佐藤文哉
小林崇 酒井圭一郎 森山光
社家暢明 柴田勇誠 斎藤優
山岸裕介 日本スポーツ企画出
版社 || 赤松恵珠子 日本文教出
版 || 石橋邦隆 柴田宗宏 野崎
博文 原嶋峻介 日本文芸社 ||
大泉智子 ひかりのくに || 渡部

晃弘 安田卓矢 仲村沙緒里
幸友裕 ヒヨーロン・パブリック
シャーズ 佐藤早苗 福音館書店
店 北森芳徳 齋藤奈津子 印
南直樹 大和田直樹 岡本大輔
富士経済グループ 本社 清水耕
平 中山周太郎 石井優 山西
孝信 山岡鉄兵 岩崎圭吾 上
坂敏郎 有井純子 木村太輔
清水田大典 婦人之友社 宮本
麻里子 望月早苗 双葉社 黄
素華 阿部淳 大東厚司 直井

主催 日本出版クラブ

日本書店商業組合連合会
東京都印刷工業組合
印刷工業会
日本製紙連合会
東京都製本工業組合
文化産業信用組合

日本書籍出版協会

翔太郎 河中涼子 市村阿理
文藝春秋II 池澤龍太 今戸國治
薦田岳史 東郷雄多 鳥嶋七実
西木考輔 箕浦由貴子 深野未
季 永井翔 羽田朋子 井村圭
佑 神山貴之 深田賢哉 芳文
社II 佐沢貴代美 田沼孝啓 ポ
プラ社II 平瀬律哉 近藤みゆき
勝又慶 藤田沙織 杉屋洋子
マガジンハウスII 大島正人 中
西剛 田代沙知 北川剛士 西

大会次第

開会

大会委員長挨拶及び 大会声明朗読

長寿者祝賀の辞及び
寿詞・記念品贈呈

堺内 大事

永年勤続者表彰の辞及び
表彰状・記念品贈呈

永年勤続者代表の謝辞
木村 広樹

閉講

我が国唯一の出版関連産業専門金融機関

本の香りのする街には文化信用がある



文化產業信用組合

<https://www.bunka-shinyo.co.jp/>

預金・借入、事業承継など ご相談はお気軽にご連絡ください。本店／千代田区神田神保町1-101 ☎3292-2711

響きあう心、ずっと、ずっと

私達は、感性を磨き、互いに思いやり、協調し、邁進します。
期待される私であるために、期待される会社であるために。



図書印刷株式会社

〒114-0001 東京都北区東十条3-10-36

TEL 03(5843)9700

URL <https://www.toshoco.jp/>



人生、ずっと、本と。

本のことなら、
hontoにおまかせください。

hontoなら紙の本も電子書籍も、
通販でも書店でも。
読書の目的に合わせて使い分け。
例えば、大型書店と連携しているから、
ネットで見つけた本を書店で取り置きできる。
まさに本好きさんの人生の相棒です。

*スマートフォン用アプリ
「honto with」を使うと、
丸善、ジュンク堂書店で
取り置きできます。



詳細&DLは
こちらから！



本好きなら、
ポイントでもっと本が読めます。

hontoサイトで買っても、
グループ書店で買っても、
共通のhontoポイントが使えます。
さらにhontoサイトとグループ書店の両方で
お買い物をしていると
ポイントがアップする仕組みもご用意。
本好きさんに好評です。



詳しい内容は
こちらから！



MARUZEN ジュンク堂書店 本文教堂 啓林堂書店 honto.jp

未来を変える。

木の力で

紙の原料となる木材を生産するために。

さらには、地球環境にも想いを馳せて。

私たち王子グループは、

「木を使うものは、木を植える義務がある」との考えのもと、

日本のみならず世界でも、

すこやかな森づくりに取り組んできました。

森づくりを通じて、

地球温暖化を食い止め、緑輝く地球を未来へと引き継いでいきたい。

私たちの取り組みは、今日もこれからも続いていきます。

ニュージーランド・Pan Pac社(王子グループ) Kaweka山林

領域をこえ 未来へ

OJI



王子ホールディングス株式会社



凸版印刷株式会社

<https://www.toppan.co.jp/brand/>

すべてを 突破する。

印刷の会社だと
思ってない?

ないっすよ。

TOPPA!!!
TOPPAN



木とともに未来を拓く

木とともに未来を拓く総合バイオマス企業として、
これまでにない新たな価値を創造し続け、真に豊かな暮らしと
文化の発展に貢献します。



日本製紙株式会社

東京都千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ TEL.03-6665-1111
www.nipponpapergroup.com

未来の開拓者 | ファイル.001

TOMOWEL
共にある、未来へ

未来の開拓者 グローバルライセンス担当

コンテンツで、未来を創る。



例えば、マンガやキャラクターのライセンスビジネス。
より多くの日本の作品が海外でも出版や
電子配信される仕組みをつくる。
アジアや欧米などの異文化の垣根を越えて、
人とコンテンツをつないでいます。
新たな価値で、豊かな未来を開拓する。社会と共に——
私たちは、TOMOWELの共同印刷です。

TOMOWEL ライセンスビジネス

検索

<https://www.kyodoprinting.co.jp>**共同印刷株式会社**

正解より別解

正解は1つ。別解は無限。

正解は過去。別解は未来。

正解は無難。別解はドキドキ。

正解はロジック。別解はマジック。

正解、なんかで、満足か。

クリエイティビティで、この社会に別解を。

•HAKUHODO•

一般財団法人日本出版クラブの理事会並びに評議員会が、2022年3月22日に開催、2022年度の事業計画案・収支予算案が厳正な審議のうえ、承認された。2022年度の事業計画と収支予算の概要は次の通りである。

【2022年度事業計画より】
5月13日（金）の「第61回全

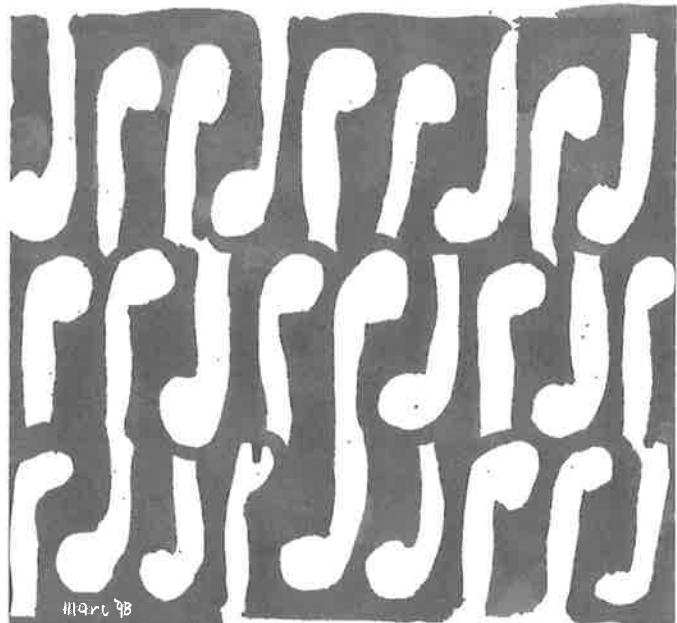
出版人大会」、10月7日（金）の「出版平和堂 第54回出版功労者顕彰会」、2023年1月6日（金）の「出版関係新年名刺交換会」等の恒例事業は、新型コロナウイルスの感染状況を考慮のうえ開催する予定である。また、第70回目を迎える「読書のめぐみ運動」は、「記念事業として、図書を希望する自治体を調査したうえ、より多くの施設への寄贈をおこなう計画を立てる。

【2022年度収支予算より】
新型コロナウイルス感染症の影響が徐々におさまっていくこ

日本出版クラブ理事会・評議員会を開催

2022年度の事業計画案・収支予算案が承認される

第61回全出版人大会記念風呂敷デザイン



まえのまりさんは自身の作品集に「作品はすべからく生命がかったものであるべき。生命が内包され、息づいていること。造り手は己の生命をかけたもの、生命がけの作品づくりをしてしかるべきもの。それだけでなく、どこに生命が生まれよう!」という文章を寄せています。
私たちが世に送り出す本やコンテンツも作り手の生命が込められているものです。作品からあふれるその息吹が読者、生活者の「生きる力」に関与し、生命の循環を生む一助となっているのです。

まえのさんの作品には「フ（音符）」をモチーフにしたものが多く見受けられます。今回の風呂敷の原画もそのひとつです。音符が音符を呼び、連なり共鳴してメロディーやハーモニーを生むイメージとともに生命の躍動を感じさせます。

私たち出版人も出版を通じて、人々と響きあいながら、生命の循環が維持できる社会へ貢献しつづけたいと切に願います。

二〇二二年五月十三日

第61回全出版人大会 委員長 千葉均

てている。クラブライブラリーでは、8月に刊行予定のブックガイド『未来に残したい忘れたくない本』と連動した展示をおこない、蔵書のさらなる活用を図っていく。また、会館事業においては、今後需要が見込まれるリアルとオンライン併用のハイブリッド会議やセミナーに対応する設備を整え、事業活性化させていく。

とを見込み、文化事業収入1200万円、厚生事業収入300万円、会館事業収入2100万円、その他維持員収入や特定資産利息収入等を含めた事業活動収入計は、前年度から1300万円増となる1億1400万円を計上した。

一方、事業活動支出については、事業の活性化に伴う会場費等の増加が見込まれるが、給与等の増加が見込まれることにより、事業活動支出計も1億1400万円となり、収支差額が均衡する予算となつた。

出版記念会

喜びを分かち合える出版人のホールでお祝いの会を。

★会報「出版クラブだより」にてご紹介して、祝賀申しあげます。



受賞祝賀会

受賞の栄誉に輝く喜びを祝賀する集いに、出版クラブホールを。

★ご案内状の作成、印刷、宛名書き、贈呈記念品、花束など、お手伝いのむきもお申しつけ下さい。

●ご予約・お問い合わせ

出版クラブホール

Tel 03(5577)1511 千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル



an invitation
to the
never before.

dentsu